

最先端・次世代研究開発支援プログラム(NEXT) 事後評価について

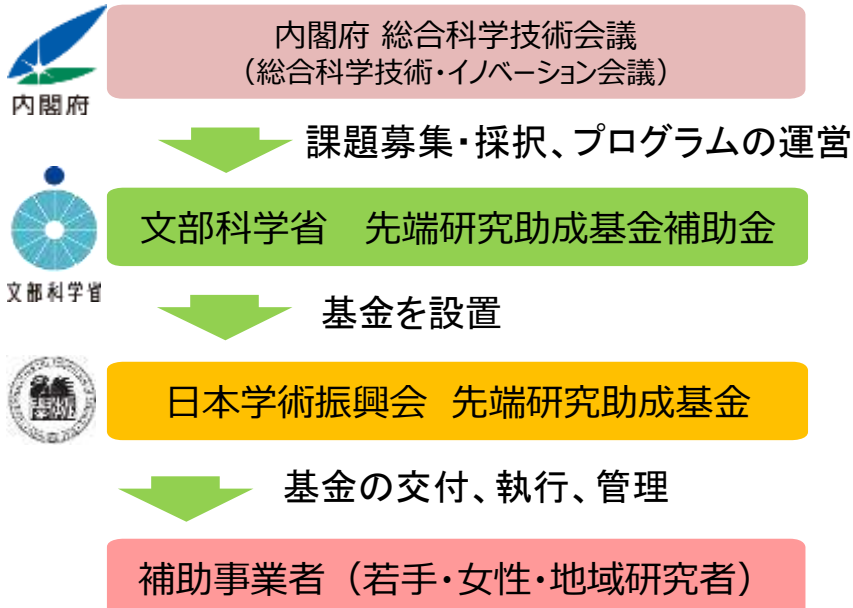
革新的研究開発推進会議

最先端・次世代研究開発支援プログラム(NEXT)

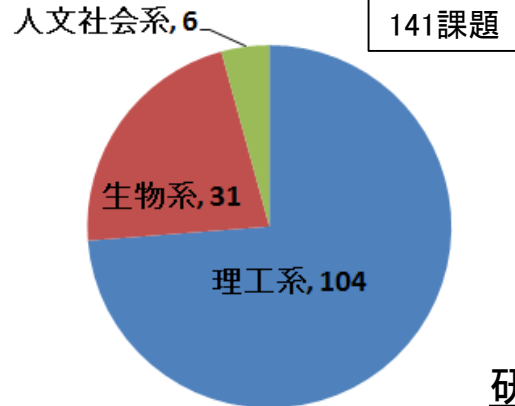
NEXTプログラムの概要

先端研究助成基金500億円(平成22年度～平成25年度)

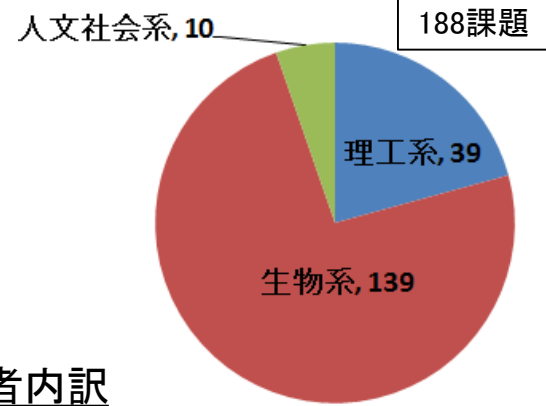
- 1. 目的**
 - ① 将来、世界の科学・技術をリードすることが期待される**若手・女性・地域**の研究者への研究支援。
 - ② 「新成長戦略」に掲げられた**グリーン・イノベーション**及び**ライフ・イノベーション**の推進。
- 2. 特徴**
 - ① グリーン・イノベーション及びライフ・イノベーションを対象主題とし、人文・社会科学的側面からの取組を含め、挑戦的な研究課題を幅広く対象(**329課題**)。(平成23年2月10日決定)
 - ② 助成金は全額**基金化**され、**多年度にわたり柔軟に使用**が可能。



グリーン・イノベーション分野

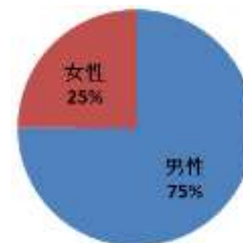


ライフ・イノベーション分野



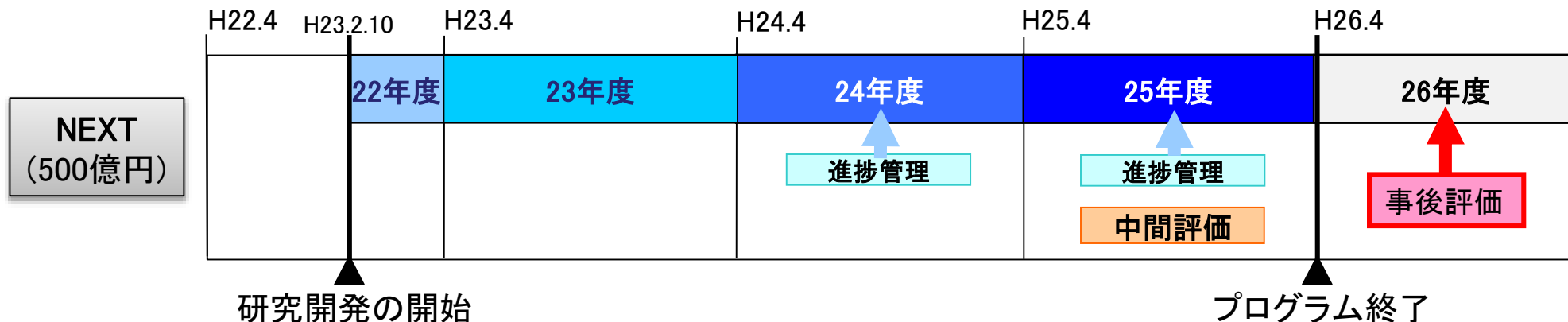
研究者内訳

女性採択率: 25%



都道府県ごとに
最低1件は採択

NEXTの進捗管理・評価について



■ 事後評価の視点

□ プログラムの評価の視点

- ・研究実施環境の改善効果あるいは影響
- ・研究成果の創出や人材育成への効果
- ・制度上の利点または課題

□ 研究課題の評価の視点

- ・総合評価 : NEXTプログラムにおいて期待された成果が得られたか
- ・研究目的の達成状況 : 所期の目的が達成されたか
- ・研究の成果 : 研究成果に先進性や優位性があるか、研究成果に特筆すべきものがあるか
- ・研究成果の効果 : 研究成果は、関連する研究分野の進展に寄与が見込まれるか、社会的・経済的課題の解決への貢献が見込まれるか
- ・研究実施マネジメントの妥当性 : 研究開発マネジメントは適切か、研究成果の発信は十分に行われているか、国民との科学・技術対話の実施状況はどうか

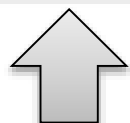
NEXTの事後評価の実施体制

(会議・委員会名)

(役割)

総合科学技術・イノベーション会議

◆ プログラムの事後評価を決定



○プログラムの事後評価(案)の提出
○研究課題の事後評価を報告

革新的研究開発推進会議

(政務三役＋有識者議員)

◆ 外部評価報告書を踏まえプログラムの事後評価(案)を取りまとめ、本会議に提出
◆ 外部評価結果報告書を踏まえ 研究課題の事後評価を決定、本会議に報告

最先端プログラム評価・フォローアップ会合

(有識者議員＋外部有識者※)

※ 必要に応じて外部有識者を加えることができる

◆ 評価に係る具体的事項の検討



○外部評価報告書の提出

NEXT 外部評価委員会

(外部有識者8名)

(外部書面評価委員21名)

◆ 当該領域の研究課題について、書面レビュー等により、研究課題及びプログラムの事後評価に係る所見を作成
◆ 事後評価に係る所見を踏まえ、評価結果を外部評価報告書として取りまとめ、推進会議に提出する。

[研究開発の達成状況等を的確に評価できる有識者、研究開発マネジメントに知見を有する識者、大学における研究開発環境に知見を有する識者、女性研究者代表、若手研究者代表など]

NEXTの事後評価に係る外部評価委員会 (委員名簿)

伊地知 寛博 成城大学社会イノベーション学部 教授

甲斐 知恵子 東京大学医科学研究所 教授

駒井 章治 奈良先端科学技術大学院大学 准教授

◎小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所 理事長

土井 美和子 独立行政法人 情報通信研究機構 監事

鍋島 陽一 公益財団法人 先端医療振興財団先端医療センター センター長

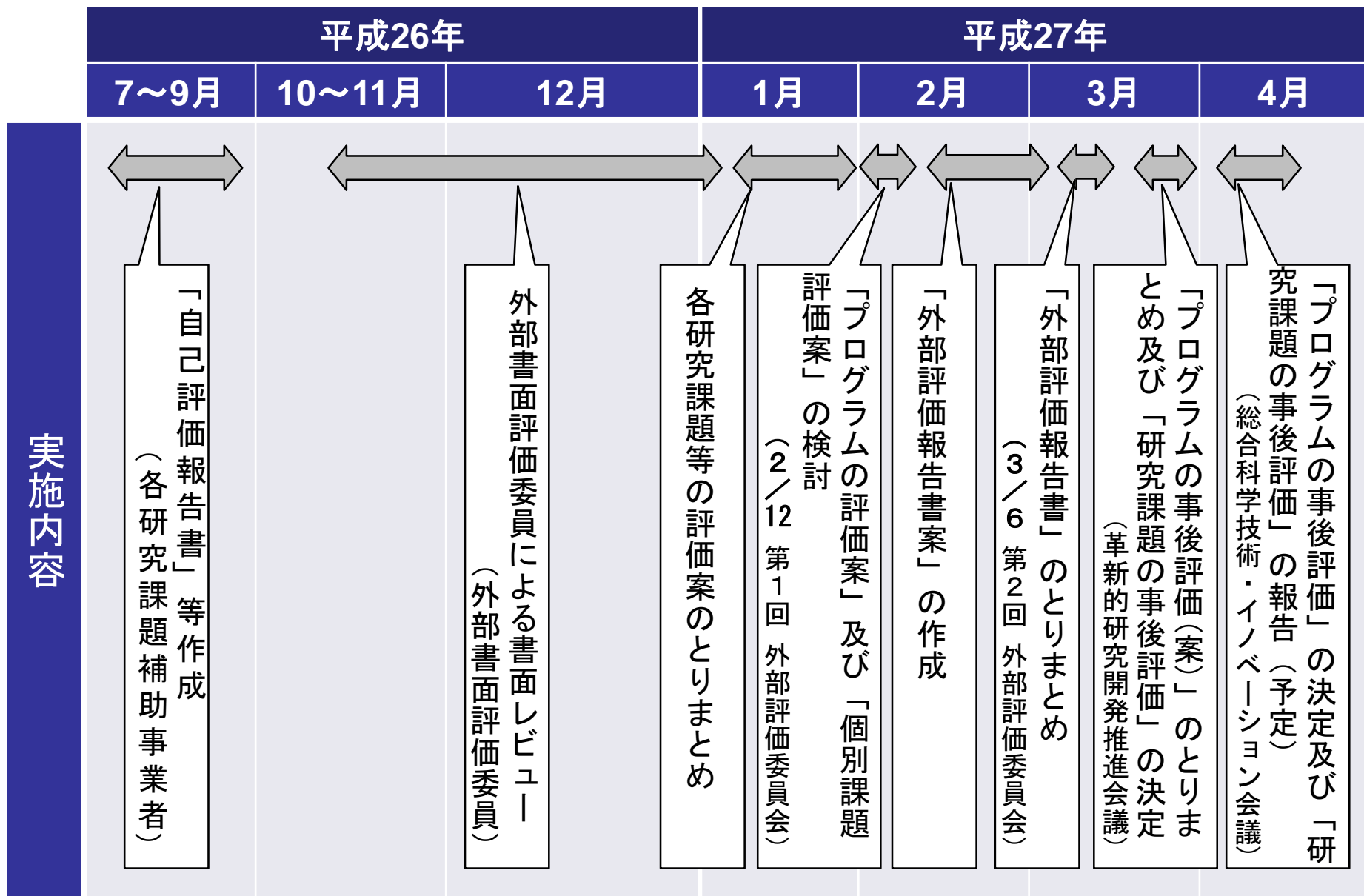
西村 幹夫 大学共同利用機関法人自然科学研究機構基礎生物学研究所 教授

宮園 浩平 東京大学大学院 医学系研究科 教授

(計8名、五十音順、敬称略、◎委員長)

※所属の機関名は、平成27年3月末時点

NEXTの事後評価の実施状況



NEXTの研究課題の事後評価結果の概要

○評価対象の329課題のうち、85課題（26%）が「特に優れた成果が得られている」、162課題（49%）が「優れた成果が得られている」と評価。

これらを合わせると247課題（75%）。

○「特に優れた成果が得られている」と評価された85課題全てについて、成果の先進性・優位性と関連研究分野への波及性。

また、この85課題のうち80課題について、社会的・経済的課題解決への波及効果が見込まれると評価。

表1-1 事後評価時の全体及び分野別総合評価

事後評価	特に優れた成果が得られている	優れた成果が得られている	一定の成果が得られている	十分な成果が得られていない	合計
グリーン・イノベーション分野	35 (25%)	73 (52%)	29 (21%)	4 (3%)	141 (100%)
ライフ・イノベーション分野	50 (27%)	89 (47%)	42 (22%)	7 (4%)	188 (100%)
合計	85 (26%)	162 (49%)	71 (22%)	11 (3%)	329 (100%)

NEXTのプログラムの事後評価結果(案)の概要

- グリーン・イノベーション、またはライフ・イノベーションの推進に寄与する研究成果の創出が概ね図られた。57%の研究者のキャリアアップが図られる等、プログラムの目的が達成されたものと評価。
- 若手・女性研究者等に、一定規模の研究資金を基金化等により自由度の高い形で与えるとともに、自立的・主体的な研究体制を整備したことが成果創出に有効と評価。
- 研究者の育成・支援について、単発のプログラムの実施にとどまることなく、継続的な取り組みが重要。
- 今後の制度設計においては、研究助成及び研究者の育成・支援に加え、大学改革等も含めた施策の全体を俯瞰した上で、既存の制度を有効に生かしつつ、各助成制度等の役割分担や相互の整合性、大規模助成と小規模助成のバランス等の観点も踏まえつつ進めることが必要。
- 革新的な成果の創出に向けて、研究者間の積極的な交流・触発を促進する仕組みを制度の設計に盛り込むことが重要。また、若手研究者の育成のためには、これに加え、スキル向上を図るためのトレーニングシステムや、メンター的な人材の起用を盛り込むことが重要。
- 当初予見しえなかった研究開発の展開や、女性研究者における出産等、ライフイベントに対応可能な、研究者にとって自由度の高い柔軟性ある制度とする観点から、NEXTでは基金化や計画変更・費目間流用に係る柔軟な運用。更なる改善についても検討が必要。